

平成19年3月期 / 中間期

決算説明資料

株式会社 ソフトフロント
証券コード：2321
(大証ヘラクレス)
2006年11月19日

本日の説明内容

- 平成 19 年 3 月期 中間決算について
- 平成 19 年 3 月期 業績見通しについて

当資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断等の記載、又はその他の既に確定した事実に基づくもの以外の記載は、将来の業績についての見通しに関するものです。これらの見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には、様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。

平成19年3月期 中間決算について

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の小数点第1位未満を四捨五入して表示しております。

平成19年3月期：業績の概要

(単位：百万円)

	平成18年3月期 中間期	平成19年3月期 中間期	増減
売上高	260	407	147
営業損益	110	44	66
経常損益	116	45	71
当期純損益	117	46	71

増収要因：SIP搭載端末の実用化に向けた開発を支援する受託案件が増加したことから、昨年度同期より56.7%売上が増加しております。

増益要因：受託案件の増加に伴う外注費の増加等から昨年度同期より費用は増加しておりますが、売上の増加が上回ったことにより損失縮小となっております。

「売上高」の状況

(単位：百万円)

	平成18年3月期 中間期	平成19年3月期 中間期	増減
売上高	260	407	147
SW販売	114	101	13
受託開発	144	306	161
その他	0	-	0

- SW販売が微減となっておりますが、研究目的向けのライセンス提供が減少したためであり、製品開発向けライセンスは堅調です。受託開発の増加はSIP搭載端末の実用化に向けた開発を支援する受託案件が増加したためであります。

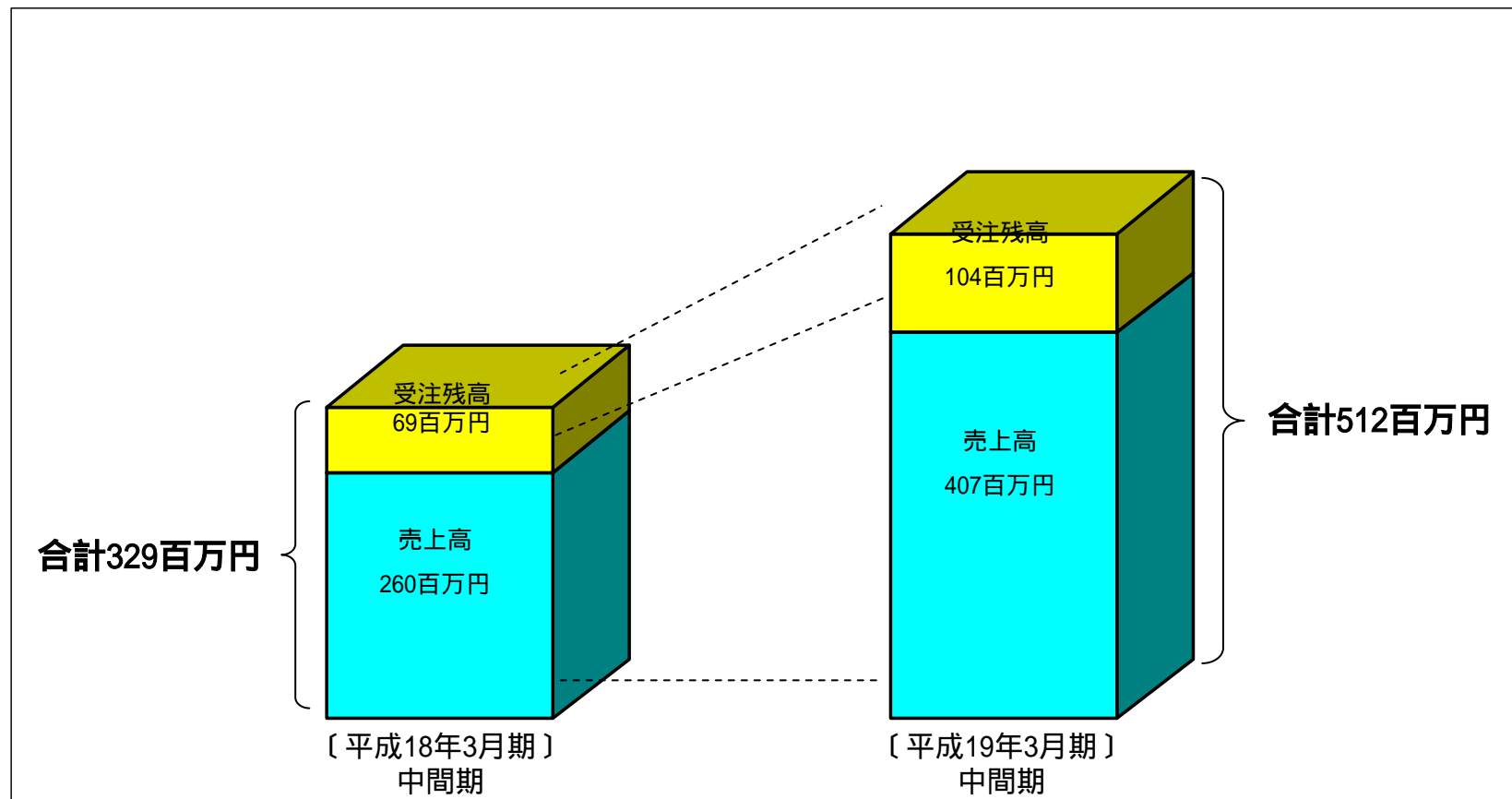
「受注高」の状況

(単位：百万円)

	平成18年3月期 中間期	平成19年3月期 中間期	増減
受注高	311	491	179
受注残高	69	104	35

- 市場の拡大にともない、受注高が昨年度同期に比べ57.7%増加しております。
- 中間期末時の受注残高も昨年度同期と比べ50.3%増となっており、第3四半期以降へ繰り越される売上の増加が顕著となっております。

【参考】売上高と受注残高合計の前年比較



- 売上高と受注残高を合わせた合計は昨年度同期に比べ55.3%の増加となっております。

「研究開発費・減価償却費」の状況

(単位：百万円)

	平成18年3月期 中間期	平成19年3月期 中間期	増減
研究開発費	77	45	31
減価償却費	42	38	4

- SW製品開発にかかる費用は安定してきております。前年同期は新製品開発のため研究開発費が多く発生しているため、前年同期比では減少しております。

平成19年3月期 中間期：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	60
税前当期純利益	44
減価償却費	+ 38
売上債権の増加額	108
仕入債務の増加額	+ 41
その他	+ 13
投資活動によるキャッシュ・フロー	178
投資有価証券の取得による支出	154
その他	23
財務活動によるキャッシュ・フロー	16
現金及び現金同等物の増減額	255
現金及び現金同等物期末残高	847
フリー・キャッシュ・フロー	238

平成19年3月期 業績見通しについて

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の小数点第1位未満を四捨五入して表示しております。

平成19年3月期 業績見通し

- 中間期におきましては、事業が順調に推移し業績予想を上回る結果となりましたが、通期の見通しに関しては、不確定要素が多いため現時点では平成18年5月12日に発表した数値に変更ございません。

(単位：百万円)

	平成19年3月期業績予想		
	中間期		通期
	予想	実績	予想
売上高	340	407	850
営業利益	50	44	67
経常利益	53	45	60
当期純利益	55	46	57

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には、様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。